

第8章 俘虜は博愛の心を以て
之を取扱ふべし

100781093 鳥居丈誉

1.二つの公式戦史

A)内湊川上流掃蕩作戦→日露戦争最後の局面

B)日本の第一報→敵を「殲滅」

C)公式戦史→一部、密林に「潰乱」→報告の書換



D)書換理由→具体的死者数不採用→事実関係を曖昧に粉飾

E)公式戦史の記述→真相隠蔽
→曖昧に粉飾→二次情報

F)ロシアの公式戦史→支隊降伏
→ダイルスキー二等大尉、義勇兵→皆殺し



2. 日露戦争最後の捕虜

A) ロシア人捕虜 → 将兵 → 日本国内に移送

B) 樺太から捕虜移送 → 南部樺太収容所 → ロシア人捕虜少数
→ 北部樺太収容所 → ロシア人捕虜多数 → 日本各地の収容所へ移送



C)名古屋収容所→高性能な収容能力→樺太の捕虜人数約4000人→半数収容

D)ロシア人捕虜→総数79367人
→アルヒブ・マケエンコフ
→日露戦争最後の捕虜
プレヴィチ報告書の主人公



3. 記憶と原像と派生

A)モルドヴィノフ少尉が率いる部隊、
ダイルスキー二等大尉率いる第
四パルチザン支隊戦闘後、降
伏→惨殺

ア)ダイルスキー二等大尉、
フヌインキン代理少尉補
は埋葬→その他は刺殺、銃
殺



B) 惨殺の生還者→マケエンコフと
ゴルジューク→マケエンコフ降
伏後、リャプノフ中将と接触→
リャプノフ帰国後、戦史編纂委
員会に捕虜殺害事件を報告

C) 「陸軍論集」の「1904～1905年
におけるサハリン攻防」→惨殺
の事実が鮮明に記述



D)1910年に発刊→「露日戦争」
→惨殺の事実曖昧に記述

E)戦史編纂官→対日関係配慮

